

「じょうもん人からのメッセージ」 森や文化を大切にする縄文人の心

「じょうもん人からのメッセージ」とは？

女神さま・ヘビ・イノシシなどの模様は特別な意味がこめられています。縄文人は、女神さまを^{ちようしぜんてき}超自然的な力を持ち森に恵みをもたらしてくれる存在と考え、人の形や顔の模様で表しました。ヘビ・イノシシなどの動物たちはそのままの姿で模様になっていますが、おそらく女神さまの^{けしん}化身か使いとして考えられていたのでしょう。

縄文人は森に恵みをもたらしてくれる女神さまや動物たちに感謝し、その姿を土器に表現しました。その際、女神さまや動物たちがなぜ、あるいはどのようにして森に恵みをもたらしてくれたかという物語を想像しながら作ったことでしょう。また、土器に女神さまや動物たちの模様をつけることで、超自然的な力が土器自体に^{やど}宿ることを願っていたかもしれません。

「じょうもん人からのメッセージ」とは、女神さまや動物たちの模様にこめられた縄文人の物語や願いのことです。

では、どのような物語があったのでしょうか？ そのひとつを紹介します。

「優しい妖精」^{ようせい}（作：小関里歩さん・塩山南小6年）

妖精のどぐうちゃんが木の実を拾い、ゆでようとした時に、遠くの村からかすかな赤ちゃんの泣き声が聞こえてきました。どぐうちゃんは「どうしたのだろう？」と思い、空を飛んで村に行ってみました。

すると人びとは食べ物が少ししかなくて苦しんでいたのです。

どぐうちゃんはすぐに持っていた木の実をゆでて人びとにあげました。

それからどぐうちゃんは人びとに

「私は土の人形になります。祭りの時に私を割り、かけらを家に持って帰り、大切に土の中にうめてください。そうすれば食べ物が、なくなることはないでしょう。」

と言って土の人形になりました。

祭りの日、人びとは土の人形を割り、家に持って帰り、大切にうめました。

すると、次の日から木の実などがたくさん取れるようになり、食べ物がなくなることがなくなったそうです。

